

27.  $^{201}\text{Tl}$ -chloride による悪性腫瘍診断

戸張 千年 金海 洋雄

黒沢 洋

(東邦大・放)

室井 克夫 野口 昭二

(同・産婦人科)

松井 謙吾 飯尾 正宏

(都養育病院・核)

一般に心筋イメージ描出に用いられる新核種  $^{201}\text{Tl}$ -chloride は、Kイオンの動態と良く似ておりまたアルカリ土金属の1種である。

これらの性質を利用し、われわれは今回既知の悪性腫瘍患者および良性腫瘍スキャンニングに応用を試みた。その結果、2.3の興味有る知覚を得たので報告した。

対称および方法は、臨床的に診断のついた悪性腫瘍例(頭頸部10例、甲状腺2例、肺4例、子宮8例)および良性腫瘍としての子宮筋腫28例に対して、 $^{201}\text{Tl}$ -chloride 2 mCi を静注し20分後にスキャンニングを施行した。機器は high-resolution collimator をつけた  $\gamma$ -camera を用いた。

結果、良性・悪性腫瘍の全例中78.0%に陽性像を得た。特に子宮筋腫(腺筋腫を含む)28例においては100%の陽性率を有していた。

興味有ることは、描出鮮明度が子宮筋腫、腺筋腫次いで子宮体部癌の順であり、筋腫内放射能活性は、少ない症例であるが正常子宮筋に対してやや高値のとり込みが認められた。すなわち  $^{201}\text{Tl}$ -chloride は、種々の悪性腫瘍の診断ある程度可能があり、また軟部組織の子宮の描出にも再現性を有していた。

## 28. 悪性リンパ腫における胸部ガリウムシンチグラム所見の特異性

中西 文子 春日 敏夫

坂本 良雄 大畑 武夫

渡辺 俊一 輪湖 正

今井 豊 守屋久見子

近藤 良明 小林 敏雄

清野 邦弘

(信大・放)

昭和51年の1年間における悪性リンパ腫41症例について65回の $^{67}\text{Ga}$ -citrate scanを行ない、71%(29例)~76%(49回)の胸部陽性率を得た。

リンパ節病巣を縦隔(前、中、後)、傍気管、気管気管支、気管分岐部、肺門、横隔膜等についてできる限り同定を試みた。

肺門、分岐部、中縦隔で最も高い陽性率を示して35%、前・後縦隔は19%でこれに次ぎ、横隔リンパ節に左側6%、右側2%であった。肺内にびまん性集積像を示したものの右26%、左23%であった。

これらのうち、横隔リンパ節については一昨年来指摘して来たところであるが、今回は肺門周辺の所見について特に病目した。

X線写真上肺門リンパ節腫大像を認めるものでもより広く肺内深く集積を示すもの、X線写真上肺門リンパ節腫大像は認められないにも拘わらず、明らかに、かつ周囲にまで集積を示したものなどがあったことについて考察した。肺リンパ節は、解剖学者(忽那)の記載によると、第5次までであるということであるが、臨床的には意識にのぼらないもの、また、ときにはリンパ節形態を示さないリンパ組織病巣の存在を示唆する所見として理解すべきであろうとする見方である。すなわち、第5次リンパ節としての形態をとらえないリンパ球浸潤程度の部位におけるactivityとしても把握する必要があると考えるものである。以上報告して予報とした。

近藤(慶応・放)より異常集積の意義、曾原(千大・放)より他の診断法についての問題提起がされ、

私見と推測を述べた。

## 29. $^{67}\text{Ga}$ -scan の有効であった opportunistic infection の1例

菅 正康 宮前 達也  
(埼玉医大・放)  
原 真弓  
(同・二内)

$^{67}\text{Ga}$ -citrate による、種々の悪性腫瘍スキャンの応用は、一般に広く実施されているが、一方炎症巣検出への応用に関しては、まだ一般的とは言えない。今回われわれは、その潜在性炎症巣検出の目的で、スクリーン5検査として、長期大量ステロイド投与中の SLE 患者に施行し、有効であったとともに興味ある知見を得たので症例を中心に報告する。

症例は 40 歳女、多発性関節障害を主訴とする SLE であり、メチルプレドニゾロン大量投与中、無症候性の E. Cloi 細菌尿を呈し、血沈、CRP の亢進のため、腎感染巣検索の  $^{67}\text{Ga}$ -scan にて、腎盂腎炎（無症状）の発見、および、偶然であるが、カンジタ性肺炎が発見された。特に後者は、胸部 X-P にて散布性粒状影の出現に約 10 日間先行するものであったため、肺病変の存在を予告する形となり、興味ある点であった。

この例のごとく、いわゆる opportunistic infection の型で合併する、真菌、細菌感染巣の存在は、臨床上、症状の隠ぺい等により、発見が遅れやすく、注意を要する点であるために、この領域への  $^{67}\text{Ga}$ -scan の積極的応用が期待される。

鈴木（東海大・放）より集積の機序として、血中の MAA に形成、感染症、肺石灰症などがあると comment がなされた。

## 30. 神経芽細胞腫の治療中 $^{67}\text{Ga}$ の肺内集積をみた1例

伊川 広道 石田 治雄  
難波 貞夫  
(都立清瀬小児病院) (同・外)  
福本 忠典 大森 一彦  
佐々木省子 高山千代子  
(同・放)  
石井 勝己  
(北里大)

われわれは腹部神経芽細胞腫の治療中  $^{67}\text{Ga}$  の肺内集積をみた1例を経験した。症例は4歳2カ月の男児。左腹部を中心とした巨大な神経芽細胞腫で、大動脈を巻き込むようにして発育しているため第1回の手術は腫瘍の部分切除で終わった。しかし術後エンドキサン、ビンクリスチンの投与に、放射線照射の併用療法を行なったところ、腫瘍は触知しなくなり、第2回目の手術で残存腫瘍の摘出とリンパ節廓清を施行する事ができた。この患者にたいして4回の  $^{67}\text{Ga}$  チトレートによるシンチグラムを行った。第3回目すなわち、エンドキサン1日40mgを13日間投与し39日経過後、ビンクリスチン1回0.8mgを5回投与し41日経過後でありまたリニアック1回150Radを19回照射した時点でのみ、全肺野にわたり強い  $^{67}\text{Ga}$  の集積が認められた。臨床的にも胸部写真でも異常は認められなかった。エンドキサンによって間質性肺炎をおこすという報告はあるが、本症例に於ても全肺野に  $^{67}\text{Ga}$  の異常集積を来したのはエンドキサンによる間質性肺炎のためであるとはいえないが、エンドキサンが肺になんらかの影響を与え、そのために一過性に肺に  $^{67}\text{Ga}$  が異常集積したのではないかと考え報告した。

朝倉（横浜市大・放）より自験例についての追加が、菅（埼玉医大・放）より X 線検査との比較についての comment がなされた。